顧客を守る！	▶顧客の生活を支える	レジリエンスに特化した商品やサービスをつくる

018 国内最速レベルで防災気象情報を提供する「特務機関 NERV 防災アプリ」

取組主体		
ゲヒルン株式会社		
従業員数	想定災害	実施地域
20 人	地震等	全国

- 地震・津波・噴火に係る特別警報の速報、大雨による土砂・洪水・浸水等の水害の危険度といった防災気象情報を、利用者の現在地や登録地点に基づき配信するスマートフォン用アプリ。

1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

発災時に迅速な判断・行動が取れるよう補助

- ゲヒルン株式会社は、災害時に被害が予想される地域に居住する人や訪問者等が的確に状況を認識し、迅速な判断・行動が取れるようにするため、地震・津波・噴火に係る特別警報の速報、大雨による土砂・洪水・浸水等の水害の危険度といった防災気象情報を利用者の現在地や登録地点に基づき配信するスマートフォン用アプリ「特務機関 NERV 防災アプリ」を公開した。
- 同アプリでは、気象庁が指定する「気象業務支援センター」と接続した専用線から、気象庁独自形式の情報データを受け取り、変換処理できるプログラムを開発しているため、気象庁からデータを受信してからすぐに、情報を配信することができる。
- 気象庁のデータの他にも、「河川情報センター」から受信するダム放流通知情報や、「災害情報共有システム（L アラート）」から受信する避難準備、避難勧告、避難指示等の避難情報や避難所・避難場所情報等、利用者にとって、その時その場所で必要な防災気象情報を通知する。同アプリが情報の種類や経過時間、緊急度に応じて独自の優先度で情報を並び替えるため、利用者は、災害時に刻一刻と状況が変わる場合においても、最新の必要な情報を確認できる。

人気アニメのイメージをモチーフとして使用

- 同アプリの名称はアニメ作品「新世紀エヴァンゲリオン」に由来し、アプリのデザインに同アニメのイメージをモチーフとして使用している。非営利であり、社会的に意義のある活動ということで、同アニメの著作権管理会社から使用許諾を取得している。
- 同社の創業者は、Twitter 上で同アニメに登場する組織「特務機関 NERV」を名乗り、東日本大震災以降、ほぼ休むことなく８年にわたって災害等に関する情報を発信し続けてきたという経験をもつ。
- 同アプリは、令和元年の９月１日（防災の日）に iOS 版を公開し、1 日で 10 万人以上がダウンロードするなど大きな反響があった。同年の台風前にも多くのユーザーがアプリを入手し、令和２年２月現在で Android 版と合わせて約 56 万人が活用している。

デザイン性に優れたアプリ画面

大雨危険度通知機能を気象庁と協力して開発

- 同アプリは、「現在地や登録地点に基づくパーソナライズされた情報の提供」「重要な情報のプッシュ通知」「地図上で詳しい情報を表示」「音声読み上げ等のアクセシビリティ」を重視して開発し、視覚障害や読字障害の人にも伝わりやすいよう、音声での読み上げ機能も搭載している。
- 災害時にユーザーがどのような体験をするのかという観点から考え始め、どのような状況下で、どのような画面に何の情報を表示するか、どのようにすればユーザーに正しく伝わるかという基本的なインターフェイスの設計とそれを実現す

る技術検証に多くの時間を使った。これにより、ユーザーにとって使い易く、災害時に的確な情報を取得できるアプリが完成した。

- また、開発のタイミングで、同社が気象庁から「大雨・洪水警報の危険度分布」に係るプッシュ型通知サービスの協力事業者に選定されたことを受け、同アプリの「大雨危険度通知機能」を気象庁と協力して開発した。同機能により、大雨危険度分布に基づき危険度が高くなった場合に、適切なタイミングで音声付きのプッシュ通知が行われるため、利用者は土砂災害の危険度や近隣河川の危険度が高くなったことに早く気付くことができる。

令和元年の台風 19 号の際の通知画面

非常時にもサービスを止めないための工夫

- 同アプリは、東京と大阪にそれぞれ 3 つのデータセンター（合計 6 拠点）でシステムを運用している。災害等により、万が一、東京全拠点が機能を停止した場合、あるいは気象庁本庁舎との通信が途絶した場合には、3 秒以内に大阪のデータセンター群が全処理を自動的に引き継ぐよう設計されている。
- 加えて、同アプリへのアクセスが集中してもシステムがダウンしないよう、アプリとサーバー間の通信回数や転送するデータのサイズが最小限となるような設計を行ったほか、ユーザーが急増しても瞬時にシステムの規模を拡張できるよう設計を行っている。これらの工夫により、先の令和元年の台風 19 号の際にも一度もダウンすることなく、利用者への情報配信を継続した。

2 取組の平時における利活用の状況や効果

- 雨雲レーダーや天気予報、アメダス実況値の機能を備えているため、アプリを毎日使用しているユーザーも多くいる。毎日アプリを使ってもらい、習慣づけてもらうことで、災害時にもこのアプリを開いてもらえるように工夫している。

3 現状の課題・今後の展開等

- 国や地方公共団体から防災気象情報を提供する際には、担当者間での情報共有や手作業による入力作業が必要となることから、一定の時間を要する。同社は、この点を IT 技術の活用によって改善し、より迅速な防災情報配信の仕組みを構築できるよう働きかけていくことを予定している。
- L アラートを経由して避難準備、避難勧告、避難指示等の避難情報や避難所・避難場所情報を受信しているが、自治体ごとに情報の粒度や発信スピードにばらつきがあり、活用に至るにはまだハードルがある状況である。同社は、各自治体や L アラートの運用主体とも連携を強化することを検討している。

4 周囲の声

- 令和元年の台風に際し、友人の結婚式のため上京し滞在していたが、このアプリのおかげで不安がかなり軽減され、精神的に支えてもらった。（アプリ利用者）

担当者の声

- 災害の情報を配信する側の私たちは、情報だけでは災害に見舞われた誰かを救助できるわけではないことを痛感しています。それでも、防災気象情報というのは、防災あるいは減災の面で、必要な情報であることも事実です。正確で迅速な情報が結果的に誰かの安全に結びつけば、本当に幸いなことだと思います。アプリは完璧ではありません。それをご承知いただいた上で、本アプリを活用いただけたら幸いです。

問合せ先

ゲヒルン株式会社　法人番号：4011001065837
TEL：03-3263-2203　FAX：03-3263-2204　E-Mail：contact@gehirn.co.jp

ダウンロード URL

iOS 版　Android 版